

若人のためのコミュニケーション・マガジン

ヤング・コミュ!

自分に合った「コミュニケーション」を探そう

気配りと会話の「ミ



「コミュカ」に騙されるな?

ネットと「コミュニケーション

女の子の「コミュニケーション

目的をもって挑戦しよう

“コミュしょう” ってなあに？

朝の会

前書きともくじ

◆前書き

「ヤンコミュ！」は、コミュニケーションに関心を持つ高校生に向けて書かれた、
ちょっと楽しいためになるお話です。

あなたも、とある高校のたくさんの出演者たちの「コミュ力」に
関わるお話を、一緒に聴いてみましょう！



◆もくじ

p 2～	朝の会	前書き・もくじ
p 3～	1 時間目	「コミュ力」に騙されるな？～コミュニケーションとは何か～
p 14～	2 時間目	ネットとコミュニケーション
p 23～	3 時間目	女の子のコミュニケーション
p 27～	4 時間目	目的をもって挑戦しよう
p 32～	昼休み	コラム “コミュしよう” ってなあに？
p 36～	5 時間目	気配りと会話のコツ
p 46～	おわりの会	自分に合ったコミュニケーションを探そう
p 50～	放課後	編集後記

1 時間目

「コミュカ」に騙されるな？ ～コミュニケーションとは何か～

純平「おはようございます、先輩」

先輩「あら、おはよう純平くん」

純平「前に薦めてもらった本、この週末に読んだんですけど。いやあ、あれは面白かったです。四章の最後の主人公の台詞が良かったですね。あそこで思わず泣いちゃいましたね。それから三章のところの親友の心理ですけど、僕はあそこで親友が主人公に対する考え方を改めたと思うんです。一章と二章で主人公の態度が微妙に変わるでしょ？ それで親友は落胆するんですけど、三章でヒロインから主人公の話聞いて――」

先輩「どうしたの？ しばらく見ない間に、ずいぶんと話すようになったわね。先週まではろくに喋らない上に声も聞き取りにくかったのに。舌に油でも塗ったのかしら」

純平「ああ、すみません。ほら、最近は社会に出てもコミュニケーション力が重要だって言われてるでしょう。そこで僕もバリバリ喋ることにして、身近なところからコミュカを鍛えようと思いました。周りの人間にコミュ障だなんて呼ばれるのは嫌ですから」

先輩「純平くんはクラスでコミュ障なんて呼ばれてるのね。それは何とかしないと」

純平「待ってください先輩、まだ呼ばれてませんよ」

先輩「まだ、ということはいずれコミュ障と呼ばれる日が来てしまうのかしら」

純平「そんな日が一生来ないようにこうやって努力しているわけで」

先輩「その努力はいいことだけどね。でも、そうやってやたらと喋りかけることがコミュニケーションではないのよ」

純平「えっ、そうなんですか」

先輩「もちろん。最近はその辺りを勘違いしている人も少なくないそうなの。ちょっとこれを見て」



先輩「ここで挙げているのはあくまでも一例で、かなりデフォルメした内容だけど。相手のことを考えずに喋るだけじゃ、コミュニケーションは成り立たないわ。会話をキャッチボールにたとえることがあるけど、いわゆるコミュ力があるというのは投げるより捕るのがうまいってことね」

純平「なるほど納得しました。ひとつ、聞いてもいいですか」

先輩「どうしたの？」

純平「先輩も割と物言いがきついというか、言葉のナイフを突き刺してきますよね。それってコミュニケーションとしてどうなんでしょうか。さっきまでの自分の発言を思い返してみてくださいよ」

先輩「さて、それじゃあ授業が始まるまで時間もあるし、部室でじっくりコミュニケーションのことに
ついて教えてあげましょうか」

純平「自分に都合が悪い話は無視するんですか……」

コミュニケーション力とは、近年様々な場において重要視されるようになってきた能力のことです。経団連（日本経済団体連合会）が行っている、新卒採用についてのアンケートをみると、企業による新卒採用の時にコミュニケーション力が最も重視されるという結果が、8年連続で続いているそうです。「コミュニケーション力」という言葉自体も最近では広く用いられるようになってきているので、皆さんも聞いたことがあるかもしれません。

ところで皆さんにとってコミュニケーション力、いわゆる「コミュ力」とはどのようなものでしょうか？

家族や友達とうまく付き合うこと？

アルバイト先の人間とトラブルなくやっていくこと？

あるいは、人前で詰まることなくすらすらと喋れること？

残念ながら、それだけではないんです。

社会に出てから必要とされるようになる「コミュニケーション」は、学生時代のそれよりも複雑で、面倒なものであると言えるかもしれません。相手と付き合っていくのはもちろんのこと、働くとなれば一緒に仕事をする相手が求めているものを正確に読み取ることも必要になってきます。

のみならず、風潮や社会情勢の変化・技術の発展などによって、現代には様々な形でのコミュニケーション、人間関係があります。誰かと直接会話することも、電話やメールをすることも、LINEやSkypeなどのソーシャルメディアで連絡を取り合うことも、ブログやツイッターで自分の意見を書くことも、すべてコミュニケーションです。また近年では、「コミュ力」という言葉のほかにも「コミュニケーション障害（コミュ障）」や「アスペルガー症候群（アスペ）」などの用語が一般に知られるようになったこ

とで、「コミュ力は非常に大切、それができないコミュ障は悪い」などといったように言葉が独り歩きしてしまうという風潮もあります。

それでは、そういった場であれこれと発言することがコミュニケーションでしょうか？ 発言ができればコミュ障なのでしょうか？ そんなわけでもありません。

長く話し続けることが苦手でも、他の人が話していることを整理して、絶妙な返事を入れることはコミュニケーションと言えます。直接的な言語を用いずとも、自分や他人の考えていることを的確に表現することも、コミュニケーションの一つではあります。他人と意思疎通することは確かに重要ではありますが、いわゆる「コミュニケーション」や「コミュ力」が絶対的なものというわけではありません。

とはいえ社会というものを形成している以上、他の誰かと関わり合わずに生きていくことはほとんど不可能です。つまり、どうしても何らかの形で他人とコミュニケーションを取る必要があるわけです。前述のような様々な言葉が広まってきたことで、近年は特にコミュニケーションというものへの関心が非常に高まっています。

そもそもコミュニケーションとは何なのか、そこにはどんなイメージが存在していて、どんな実態があるのか。社会人として働くにあたってどういったコミュニケーションの形があるのか……などといった点について、まずは解説していきます。

先輩「ではこれから実際のレクチャーを始めるわ。あんまり堅苦しいことを語るつもりはないから、肩の力を抜いて聞いてね」

純平「はい」

先輩「最初はコミュニケーションそのものについて解説します。すでに知っているという人もいると思うけど、おさらい的な意味合いも込めていきましょう」

純平「誰に向かって話してるんです？ 今のところ、この場には僕一人しかいないはずなんですが」

先輩「何を言ってるの。画面の向こうの皆に決まってるじゃない」

純平「のっけから妙なことを……」

◆コミュニケーションって？

まず、「コミュニケーション」とは何なのか。英語の辞書を引いてみると、

「**communication**……（口頭、文書などによる）伝達、連絡、通信。伝える（伝わる）こと」

（ジーニアス英和辞典 第4版 大修館書店）

といった意味が出てきます。言葉や文書で情報や意思を相手に伝えること、という感じですね。

それでは、もっとも身近なコミュニケーションである会話を例にとって見てみましょう。

言葉を使って誰かと話すというのは、多くの人が日常的に行っていることです。声に出して話すだけが会話ではありません。メールやチャットなども文字という媒体を使っているだけで、会話の一種と考えてもいいでしょう。会話は、「自分から話すこと」と「相手の話を聴くこと」の二つから成り立っています。

「話す」コミュニケーションの際に重要なのは、距離の取り方と TPO です。ちなみに TPO とは、

Time＝時間

Place＝場所

Occasion＝場合

の頭文字を取って、状況に合わせた態度や方法、服装などを使い分けることです。話をする時にどこまで踏み込んでもいいのか、どういった状況なら言っているのか。その両方を意識することが大切です。

しかし、だからといって必要以上に自分を抑え込むことはないのです。言いたいことがあれば、言っても構いません（もちろん、相手を傷つけることのないよう、距離や状況、言い方などを多少は意識した方がいいでしょう）。言いたいことがあるのに言わずに我慢するのは、ストレスを溜めてしまうことになりかねません。溜めこまずに、上手な自己主張を行うこと。それが、自分から話していく場合には大切なのです。

逆に他人の話を聴くときには、いきなり自分の意見を言ったり反論したりせずに、まずは相手が話すに任せて適度にあいづちを打っているくらいが良い、と思われます。難しく思うかもしれませんが、相手が話している間、こっちは頭を使えるのです。その間に相手の話への反応を考えてみましょう。漫才ではないのですから、気になったところにいちいちツッコミを入れていては、話が途切れて相手に不快な思いをさせてしまうかもしれません。もちろん友人などとの会話の場合は別ですが。

他人が話しているときはしっかり耳を傾ける、それが「聴く」コミュニケーションです。

仕事上でのコミュニケーションにおいては、単なる「聴き上手」というところからさらにワンランク上の対応ができることが望まれているのですが、それについては少し後で説明します。

純平「話す際も聴く際にも、相手のことを考える、というところがポイントなんですね」

先輩「当然よ。コミュニケーションはそれを取る相手がいないと成立しないんだから。冒頭のきみは、
そこのところができていなかったわけね」

純平「冒頭って何のことです？」

先輩「そんな話はどうでもいいの。相手のことを考える、ってことが重要な。一人でコミュニケーションをしていたら、危ない人でしょ」

純平「危ないというか、単に寂しい人じゃないかと」

先輩「まあ、学生や社会人といった身分に関わりなく、これはコミュニケーションを取るうえでの基本になることね。じゃあ、次はもう少し踏み込んだ話をしていくわ」

◆社会のコミュ力、学生のコミュ力

社会に出てコミュニケーションを取るというのはどういうことか。お金を得るためにモノを作ったり、それを売買したり、あるいはサービスを提供するわけですから、学生のコミュニケーションとは違ってビジネスの視点が入ってきます。社会で必要とされるような人材とは、すなわち何らかのビジネスをするうえで必要な人材、と見ることもできるかもしれません。

ビジネスというのは需要があって、それに供給がもたらされることで成り立ちます。つまり、根元にあるのは誰かの需要です。需要とは、「～が欲しい」「～が足りない」などという欲求、端的に言えば不満でしょう。この不満を抱えている相手に、欲しているものを適切に供給すること。これがビジネスです。

例として、サラリーマンになって取引先の人と話をしている時のことを考えてみましょう。自分の会社の商品を買ってほしいが、どうしたらいいのかわからない。こんな時、すべきなのは何でしょうか。新製品のアピール？ 熱心な売り込み？ それよりもまず、やることあるとは思いませんか。

そう。相手が何を買ってくれるのかを知ることです。

相手が何を欲しているのか……つまり、需要は何なのか。それがわからないといけません。「自分が買ってほしいもの」をいきなり売り込むより、「相手が買ってくれそうなもの」を紹介した方が、スムーズに取引が進むはずで

す。それでは、相手の需要を知るために必要なコミュニケーションとは何か？ これは前節で述べた、「聴く」コミュニケーションです。何が欲しいのか、言ってもらえないと話になりませんね。相手の話に集中して耳を傾けることで、相手の需要を引き出し（あるいは予想し）それに合わせてこちらから提案することがベターです。

もともと日本人は、自分から発言したりものごとを主張したりといった行動をあまり取らない傾向があるとされています。正直に「何が欲しいですか」と訊ねても、答えてくれるとは限りません。限られた情報をただ「聞く」のではなく、集中して「聴く」こと。それをもとに頭を働かせ、需要を読み取っていく必要があるということです。

また、企業などに入ってしばらくの間は、研修をさせられたり上司から指導を受けたりします。これはアルバイトだろうと正社員だろうと変わりませんが、どうせ指導されるのならば早く正確に仕事を身につけた方がいいでしょう。こんな時も、相手の話をしっかり聴いて頭に叩き込むことが重要です。

一口にコミュニケーション能力と言っても、社会でより強く求められているのは「聴く」ことなのです。

その一方、学生の間で一般的に必要とされる（あるいは必要だというイメージがある）コミュニケーション能力は、どちらかというと「話す」方が強いと思われます。聴き役に徹するよりうまく話せることの方が、周囲の人と仲良くなったり会話を楽しんだりするのに活用しやすいからでしょう。この場合のコミュニケーションはうまく話すということがメインであって、聴くことは二の次になってしまいがちです。

しかし、社会でも同じようにいくわけではありません。なぜなら会話を楽しむだけであれば、相手の考えを読み取ることは決して必要ではないからです。ただ相手の言葉を聞いて、その内容が理解できるだけいいのです。

あるいは理解できなかったとしても、適当にあいづちを打っていただければどうにかなることもあるかもしれません。このようなやり方は、下手をすればお互いに言いたいことをぶつけ合うだけになりかねないのです。言葉のキャッチボールとはとても呼べないでしょう。

もちろん言いたいことを言うのは気分がいいですし、話してばかりなのが悪いというわけではありません。しかし仕事をする時のコミュニケーションは、自分や周りの人間のため、会話を楽しむために行うわけではありません。

仕事を成功させるために、円滑なコミュニケーションを取らないといけません。

先ほどのサラリーマンの例を使って、再び考えてみましょう。相手の需要がわかっているので、次はそれに対する供給です。ここで「話す」コミュニケーションの出番というわけです。自分達が供給できるものが、いかに相手の需要と合致しているのか。自分達から供給をするメリットはあるか。などといったことがわかるように、的確な情報伝達が必要とされます。

ただ話すのではなく、正確にわかりやすく……ということが社会では求められます。誰も彼もが自分の話に耳を傾けてくれるわけではないのですから。そこで、簡潔に情報を伝えることが大事になってきます。具体的なテクニックとして、「まず結論を述べる」ということなどが挙げられるでしょうか。

社会においては、辞書的な意味での「コミュニケーション」にプラスアルファが必要とされている、と言ってもいいかもしれません。



純平「奥が深いんですね、コミュニケーションって」

先輩「ストレートに面倒くさいって言うてもいいのよ？」

純平「さすがにそれはストレート過ぎると思うので、やめときましょう」

先輩「サラリーマンの取引を例として挙げたけど、このような考え方は、商談や交渉の場などで役に立つそうよ」

純平「つまり、商社にさえ就職しなければ楽ができる、と……」

先輩「そんなわけないでしょ。どんなところで働くことになっても、他者とのコミュニケーションは必要になると思うわ」

純平「それはとっても残念です」

先輩「馬鹿なことを言わないの。次は社会生活を送る時のコミュニケーションについての解説ね」

◆社会で生きるために

社会人として生活をしていると、どうしても避けられないことがあります。仕事というものが存在する以上、行動を共にする相手を選べないことです。もちろんプライベートな付き合いは別ですが、あまり好きになれない人と一緒に仕事をする（させられる）ことも起こるようになってきます。好きになれない相手は避けて、仲のいい友人とだけ過ごす、ということが仕事の場では通用しなくなるのです。

同じ目標に向かって仕事をするとなれば、意思疎通を図って協力した方が仕事は上手くいきやすくなります。てんでばらばらに仕事をするのと、何人かで互いに手助けをしながら仕事をするのとでは、どちらが効率的に進行するのでしょうか？

能力さえあるなら、一人で仕事をした方が早く進められる、と考える人もいるでしょう。しかし、協調性がない人間などと思われてしまつては、周囲から孤立することもあるかもしれません。前にも書きましたが、社会というものがあるのですから、他の誰かとまったく接することなしに生活して仕事することは困難です。どんなに優秀な社長がいたとしても、社長だけですべての仕事ができるわけではありません。

仕事上で良い関係を築くのであれば、先に記したコミュニケーションの手法以外にも、最低限の礼儀作法は知っておく必要が出てきます。敬語などもそうですが、学生生活ではまず使わないような特殊な言い回しなども、仕事をする時には使うことがあります。

家族や学校の先生、あるいは友達に相手をしてもらって、ほんのちょっとでも練習してみるのもいいかもしれません。

ただし、社会に出てから絶対にこのようなことができなければならない、というわけではありません。
社会人であっても、コミュニケーションがうまくいっていない場合はあるのです。

次のランキングを見てみてください。

「だから職場の飲み会は行きたくないんだよ！」と思ってしまう瞬間ランキング
(マイナビニュース調査・複数回答あり)

男性編	女性編
1位 上司の説教が始まる 20.4%	1位 会費が高い 23.6%
2位 飲み会の時間が長い 13.7%	2位 お酌をさせられる 22.3%
3位 会費が高い 16.2%	3位 飲み会の時間が長い 19.2%
4位 話が盛り上がらない 12.9%	4位 プライベートについて聞かれる 16.4%
5位 お酌をさせられる 12.7%	5位 話が盛り上がらない 16.2%
話題が仕事のことばかり 12.7%	

仕事のみならず、プライベートな場に「仕事」の関係が割り込んでくることもあります。職場での飲み会はその最たる例です。否応なく「仕事」という観点が持ち込まれてしまうので、好きなことを話して飲み食いする、というわけにはいかないのです。

楽しいはずの飲み会なのに、仕事の文句を言われたり、親子ほども年が離れた上司から説教を食らったり、女性であれば酔った男性陣からセクハラめいたことをされるかもしれません。当然嫌がる人もいるわけです。その辺りの折り合いは、社会人であってもうまくいかないことがあるようです。

ですから、社会に出たらコミュニケーションができなければいけないんだ、などというプレッシャーを感じることはありません。「社会人もこんなくだらないことで悩むんだな」くらいの気持ちでいましょう。

純平「大人は大変なんですね」

先輩「そんなに難しく考えることはないわよ」

純平「でも、飲み会は嫌に思えてきます。皆で楽しく、ってわけにはいかないんですか」

先輩「仕事上のつながりがメインだから、共通の趣味でも見つからない限りは仕事の話題になりがちなのよ。たとえ共通の趣味があっても、部下は上司の機嫌を損ねないよう気を遣うでしょうし。出席した全員が楽しく過ごすのは意外に難易度が高いの」

純平「どこまでも仕事や上下関係がついて回るってことですか」

先輩「まあ、高校生にとってはまだまだ先のことだし。飲み会に限らず、仕事の時でも学生時代の考え方が通用するとは限らない、ってことがわかっていればいいんだから」

純平「それにしても、社会に出てすぐの若者にそういう考え方や態度を求めるのはちょっと酷じゃありませんか？」

先輩「これまで述べたようなことを知っているだけでも意識は変わってくるんだけど……じゃ、実際にできることについて少し話してみませんか」

◆高校生のうちにできること

どうすれば、企業に求められているような「聴く」コミュニケーション能力を身につけることができるのでしょうか。といっても、これといって特別なことをする必要はありません。周囲の人の話や行動、あるいは身の回りで起きていることをしっかりと捉え、それについてじっくり考えてみる。少しずつでもそれをやることで、「聴く」「話す」能力はおのずと身についてくると思います。

たとえば、毎日のように遅刻してくる友達がいるとします。なぜその友達がいつも遅刻してくるのか。遅刻を改善するには、どのような方法が考えられるか。その方法を本人に実行させるには、どんな風に伝えればいいのか……という具合に、考えの枝を広げていきます。テーマは何でもいいのです。方向性もとらずに気になくて大丈夫です。実際の仕事場でそのように思考し、発言するのはまだ少し先のことです。今は練習のつもりで、深刻に悩むことなく頭を使ってみます。きっと、「聴く」「話す」コミュニケーション能力の基礎となってくれることでしょう。

もし、さらに進んだことをしたいという人がいれば、あるテーマについて考えたことを何かにメモしておくというのもひとつの手です。あとで思い出せれば、紙でも何でも構いません。そうやって自分が考えたことを保存しておけば、ふと別のアイデアを考えたり、さらに深く踏み込んだ内容を思いついたりした時に、まとめやすくなります。その考えを他人にも理解できるように整理するところまでいけば、かなりレベルアップしていると言えるでしょう。もちろん、ここまでできるようにしろというわけではありません。余裕のある時にちょっとやってみようかな、くらいに思っていれば大丈夫です。

このように筋道立てて思考することは、社会に出る前の大学生活でも役に立つはずです。高校までと比べて、学び方も環境も激変する大学では、高校まで続けてきた常識が必ずしも通用するとは限らないからです。考え方を鍛え、切り替えておくこと。毎日の学生生活や迫り来る受験で忙しい毎日ですが、ほんの少し暇な時間ができた時にでも考える練習をしてみることは、決して無駄なことにはならないと思います。

ここまであれこれと解説してきましたが、コミュニケーションとは「聴く」「話す」ことだけではありません。世間一般の分類からすれば「コミュ障」と呼ばれてしまいそうな人であっても、素晴らしい活躍をしている人はたくさんいます。

イメージや先入観などに流されることなく、自分の考えを持とうとすること。それが、円滑なコミュニケーションへの第一歩と言えるかもしれません。

先輩「つまり、考えてものを言えるように備えておくんだ、ということになるわけ」

純平「ちょっと略しすぎな気がしますけど、それが近道というか最適ってことですか」

先輩「ところで、話すよりも聴く、ということをさんざん言ってきたけど、最近の若い人は少し違うところもあるみたいね」

純平「あんただって若い人でしょうが」

先輩「そんなことはさておき。若者と言えばネットや SNS よ。近年は急速に発達してるわね」

純平「僕もいくつかやってますよ。Twitter とかですね」

先輩「ネットのコミュニケーションは普通に話す・聴くこととは異なる部分が大きいの。場合によっては相手の言うことに構わず好き勝手な書き込みをしたり、あるいは SNS などのコミュニティに所属していないとリアル世界の交友関係についていけなかったり。まったく、若い人の考えることはわからないわ」

純平「だから、先輩は何歳なんですか。というかその話、すぐ終わります？」

先輩「終わらないわよ」

純平「だったらまた今度にしませんか？そろそろ授業が始まるんですけど」

先輩「あ、言われてみれば確かにギリギリね。急がないと授業に間に合わないかも」

純平「先輩の話が長かったからですよ」

先輩「失敬な。もうちょっとだけ続くんです。具体的に言えばあと 5 章くらい」

純平「5 章というと？」

先輩「いえ、こっちの話よ。話の続きは今度にしましょ」

純平「また部室に来ればいいんですよね？」

先輩「純平くんは付き合いが良くて助かるわ。

……それでは皆さん、ここまで読んでくれてありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。さようならー」

純平「誰に手を振ってるんですか」



参考文献

姜昌勲『あなたのまわりの「コミュ障」な人たち』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012

斉藤孝『コミュニケーション力』岩波書店、2004

浦坂順子『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのか』筑摩書房、2009

2時間目

ネットとコミュニケーション



剛 「昨日〇〇のツイート見た？ おもしろかったよな～！！」

光一「俺 Twitter やってないねんな～」

剛 「え～めずらしいな～。なんで～？ mixi は～？」

光一「mixi もやってない～。個人情報とかもれそうやし～」

剛 「本名使わんでもいいし大丈夫やろ？」

光一「そうかな～。つぶやいたこととかどれだけ広がるかわからんしな～」

先生「おもしろそうな話をしているね。剛君が光一君の事をめずらしいと言っていたように Twitter や mixi などでは現在ではとても多くの人々が利用しているし、光一君が言ったように悪い面だってたくさんあるね。それではもっと詳しく見てみようか」

◆SNS って？

まず、SNSとはなんのでしょうか？ 皆さんも利用しているかもしれない Face book や GREE、剛君と光一君が話していた Twitter や mixi などなど。これらすべて、実は SNS と呼ばれるもののなのです。つまり、皆さんにとって、とても身近なものであると思って読み進めてみてください。

SNS とは、ソーシャルネットワーキングサービスの略称で、人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の Web サイトのことで、友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービスのことで

皆さんも知ってのとおり、SNS には自分のプロフィールや写真を会員に公開する機能や、互いにメールアドレスを知られることなく別の会員にメッセージを送る機能、新しくできた「友人」を登録するアドレス帳、友人に別の友人を紹介する機能、会員や友人のみに公開範囲を制限できる日記帳、趣味や地域などテーマを決めて掲示板などで交流できるコミュニティ機能、予定や友人の誕生日などを書き込めるカレンダーなどの機能で構成されています。驚くべき点

は、皆さんは当たり前のように思っているかもしれませんが、これらのサービスの多くが無料で利用できるという点です。無料である事が SNS が世間に普及した一つの要因になっているのかもしれませんが。

◆SNS の特徴

今述べた、無料で利用することができる、という点もひとつの大きな特徴かもしれません。その他にも、光一君が「つぶやいたことがどれだけ広がるかわからない」と言っていたように、これまでの 1 対 1 で送受信するコミュニケーションとは異なり、1 回の送信で広い範囲の交友関係に、さらには交友関係を通じた直接的には知らない人も含めて送信が可能である、という特徴もあります。つまり、SNS は短い発信で大きな成果やさまざまな影響効果が期待できるのです。自分が書き込んだ事が半無限の受け手に伝達され、書き込みに対してはリアルな反応が返ってきやすい。このように、相手とのやり取りや反応などの相互作用で自分の存在を強く実感できるという点が、これまでのメディアにはない SNS の特徴の一つです。

◆コミュニケーションの変化

SNS が今のコミュニケーションとどのような関係があるの？ と疑問に思った人もいるかもしれません。SNS が普及したことで、人々のコミュニケーションはどのように変化してきたのでしょうか。これまでにない拡散速度、また、剛君が「本名を使わなくてもいい」と言っていたように、匿名性などの特徴をもち合わせる SNS は、良い面からも悪い面からもこれまでにないコミュニケーションの姿をあぶりだしました。皆さんの中にもいるかもしれませんが、自分の発言がどの範囲にまで広がるのかというリアリティをもっていない上に、人間関係というのは思ったよりも狭く、情報の拡散が容易なため、トラブルになるような発言をしてしまった、と気付いたときにはもう時すでに遅し。しかし、それと紙一重のところで、きわどいネタほどおもしろいので周りも求めます。SNS の魅力の一つに、注目を浴びやすい、という面があり、それを望む利用者の発言は極端なものにシフトする傾向にあることが、これらの失言の原因となっています。つまり、相手の顔を見ていない空間を超えた場所でコミュニケーションを取るために、不用意な発言をしてしまいトラブルを巻き起こすという事態に陥ってしまうのですね。

これは、学生である皆さんにだけ関係のあることではなく、社会に出てからも、大いに関係のある事なのです。社会に出た人が SNS によってトラブルを巻き起こしてしまった事例を見てみましょう。



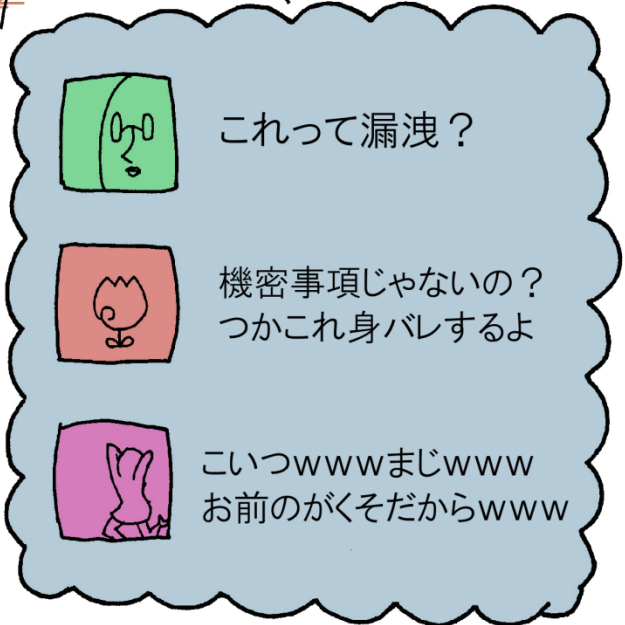
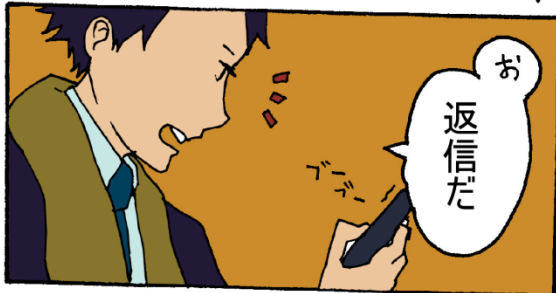
俺は、
入社二年目の
サラリーマン



くっそwww
あいつwまじwww

〇〇の会議でせっかく俺が
×××って意見出したのに
ボロクソに言いやがってww
課長まじくそwww

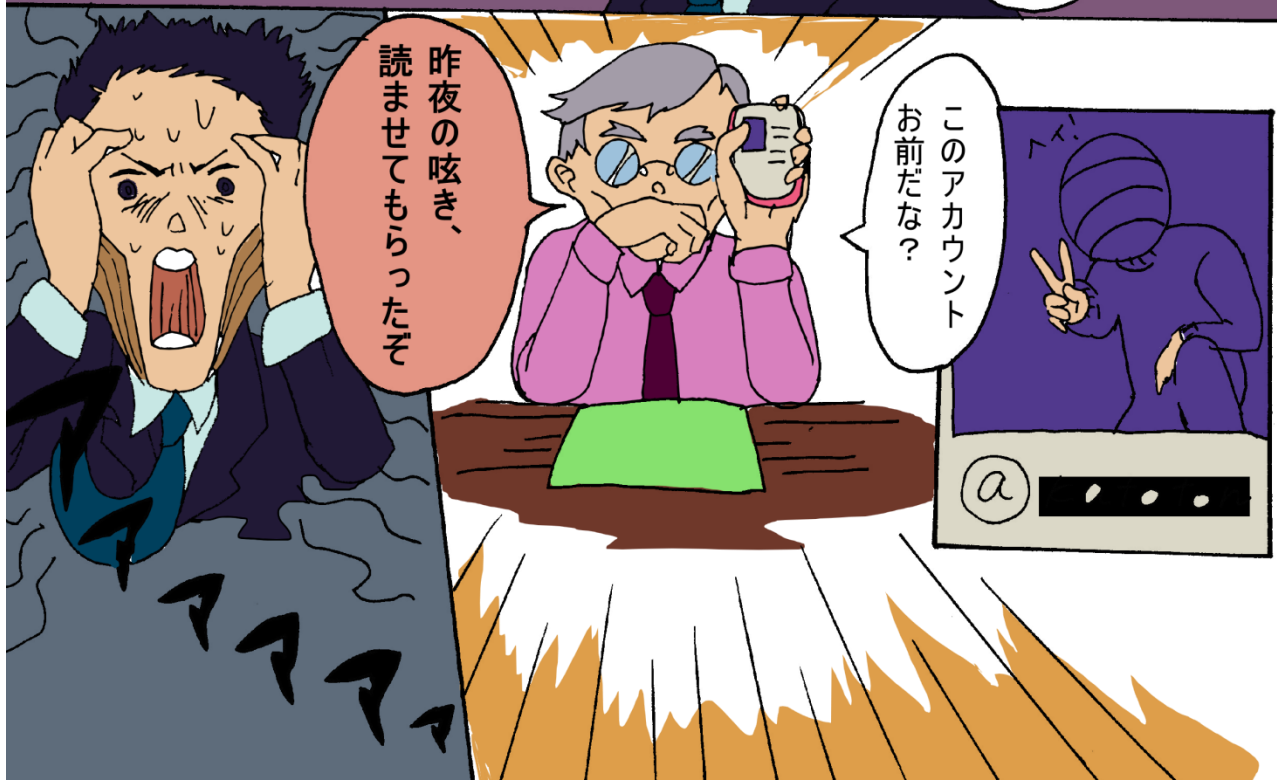
今日も怒られた。



……つもり、
だった。



俺は何とか
適当にごまかし、
やり過ごした。



皆さんどうでしたか？ 不用意な発言をするものではないという事がよくわかったのではないのでしょうか。こうしてみると、SNS は利便性や発言力において既存のコミュニケーション手段に勝る一面をもつ一方で、意見が偏りやすい、極端になりやすい、それゆえにトラブルを巻き起こしてしまう可能性がある、という傾向が分かってきました。

◆SNS によるコミュニケーションの未来

直接会話をした場合と、メールでやり取りをしている場合で、同じ人物であってもイメージが異なる事はありませんか？ このとき、どちらかが本物で、どちらかが偽物というわけではなく、SNS という新しいコミュニケーションによって見出された人間の新しい一面、というふうに考えることもできます。ほんの少し前まで、インターネットなどのネットワークはごく一部の人が使うものでしかありませんでした。しかし、圧倒的な普及率を誇る携帯電話と SNS が結びつくことで、ネットワークが非常に手軽なものとなり、その結果、現在のようにメインカルチャーとして台頭してきました。もちろん SNS には、これまでのさまざまなコミュニケーション手段の延長として使われるという、あまり変わらない面も多くあります。しかし、新しいコミュニケーションは、人間のありさまを変える面も備えています。近い未来、見た感じや印象に加えて、「ネット上の印象」が、人物評価軸の一つになる日が来るかもしれませんね。

先生「少しは SNS によるコミュニケーションについてわかったかな？ 多くの人が利用しているから、いろいろな人と繋がる事ができるという良い面もあるけれど、光一君が心配しているようにどれだけの範囲の人に自分の発言が伝わるか分からないし、トラブルを巻き起こす事もあるという悪い面もあるんだね」

剛 「交友関係も広がるし、おもしろい事もあるけれど、注意しなければならない事もあるんやな！」

光一「不用意な発言をしないように注意しながら、いろいろな人と情報共有したり、コミュニケーションがとれれば、とても便利ってことか！」

先生「その通り。ただ、発言に気を付けなければいけないのは、SNS だけじゃないんだ」

剛 「え、なんなんですか先生？」

先生「掲示板（BBS）での発言にも十分な注意が必要なんだよ。2008 年には、こういったネット上での発言が影響して大きな事件を引き起こした例もある。秋葉原無差別殺傷事件だ」

◆秋葉原無差別殺傷事件

2008年6月8日、日曜日の秋葉原の歩行者天国に時速50キロ近くのスピードで2トントラックがノーブレーキで突っ込みました。次々と歩行者をはね、さらに犯人はトラックから降りた後もナイフで人を切り付けました。7人もの命が奪われ10人が重軽傷を負うという凄惨な事件です。その頃、テレビや新聞などのメディアではインターネットに犯人からの書き込みがあったと話題になりました。つまり、この事件はインターネットの犯罪予告が世間に大きく存在を示した事件でもありました。

犯罪予告というのは、インターネットが普及する前から存在しており、特定の会社や相手に手紙を送ったり電話をかけてから起こすような手口として認識されていました。インターネット普及以前の予告犯罪と、インターネットを使用した予告犯罪はどのような点が違うのでしょうか。

使っている道具が違うという点もありますが、大きな違いとしては、インターネットの特徴のひとつである匿名性があるという点です。インターネットでの犯罪予告は、その予告が特定の相手だけに向けられたものでなく、不特定多数の人間に見られることを前提にしたものであることなのです。自分を表現したい、自分のことを誰かに知ってほしい、他人との何らかの関わりが欲しいと思った時に犯罪予告をして注目を集めようとしてしまうような事態が近年起きています。インターネットの中の世界に依存してしまうと、その中のことが自分の全ての中心になってしまうことがあるのです。

この事件を起こした青年は、2月25日から犯行におよんだ日までの間にほんの一言のつぶやきを含めると3000回近くもケータイサイトの掲示板に書き込みをしています。全てリアルタイムで自分の心の内を吐露していたものであると報道されていましたが、このような書き込みを見た人々が実際にどのように反応するかは、皆さんにもわかることでしょう。

「まさか、本当に事件になるとは思わなかった」から、反応をしなかったのです。情報の信憑性が薄いということも、インターネットの特徴のひとつです。しかし、インターネットでの書き込みに依存することでその信憑性の薄さを忘れ、ネット上での自分の印象・人格が現実の印象・人格と同じレベルで混ざってしまうということがおきます。一度ネット上に書き込みをすると、それを現実の世界でも実現しなければならないような気持ちになってしまい自分では止められなくなるという事態が起きます。インターネット上での過激な発言には注目も集まりますから、どんどん書き込みの内容はエスカレートし、その発言自体に依存してしまい、後に

ひくことが出来なくなったことで引き起こされた事件であったといえます。

先生「他にもインターネットで発言したことで、どんどん現実の自分が追いつめられてしまった事例はたくさんあるよ。高校3年生がクラスメイトに対して傷害事件を起こしてしまったこともある」

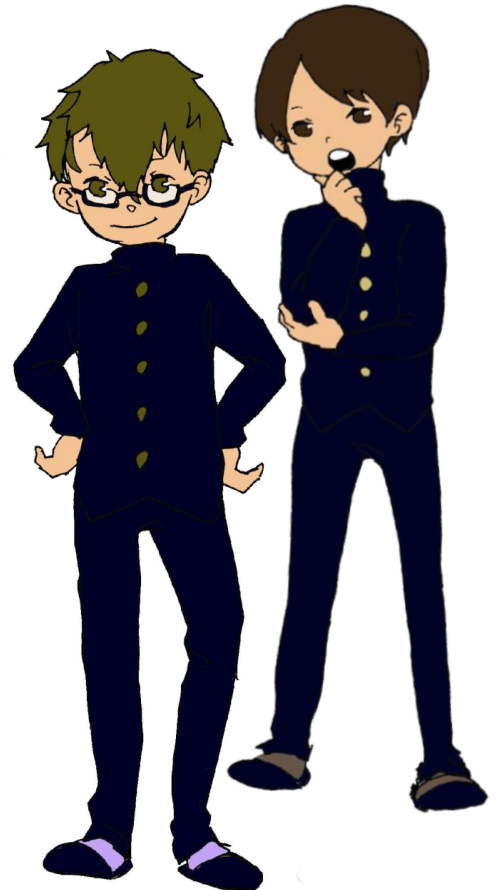
光一「ネット上での自分ってのも大切なんやとは思いうけど、その印象や人格に依存してしまうんって怖いな〜」

剛「でも、そんならネット上の自分があることでコミュニケーションが不安になる人だって増えてそうやんな？」

先生「そうだね。SNS や BBS には不特定多数が見られるという機能と共に、誰が見たかわかる機能やコメントを返す機能がついているからなあ。自分の発言にコメントが返ってこないことで不安を感じることもあるかもしれない」

光一「でも、常にケータイを持ってコメント返し続けるって不可能やん！」

剛「それがわからへんようになるのが、ケータイ依存なんちゃう？」



◆ケータイ依存

- ・メールの返事をすぐに返さないと不安になる。
- ・知人の SNS をみたら、何かコメントを残しておかなければいけないと思っている。
- ・いつも仲間の中で流行っているものを知りたい。
- ・話題についていけなくなるのが怖い。

皆さんは、上記のようなことを思うことはないでしょうか。パソコン・ケータイやメール、SNS 等のインターネットが発達してきている現在、いつもだれかとコミュニケーションが取れるようになりました。しかし、その繋がりが自分自身の考えや行動を縛り付けるものにならないためには、SNS やメール、インターネットとの上手な付き合い方を知ることも必要なのでは

ないかと思います。

まず、メールの返信については即レスが求められていることについて考えてみましょう。メールの返信が遅い亀レス（遅レス）は嫌われるという考え方は完全に間違いであるとはいえません。重要な用件や、すぐに確認をするべきことなどがメールで送られてくることもあります。ただ、自分のケータイにある友達からのメールを見てみた時、そこまで返信の速さが大切な用件のメールは実はそんなにはないのではないのでしょうか。相手に返す時は即レスしないとだめだと気にすることも多いと思いますが、このようなデータがあります。

中高生 3000 人に対するアンケートで、“メールの返信について、どのくらいの時間で相手に返信するか” というものですが、約 3 人に 1 人が「すぐ」返信すると答えたにも関わらず、相手からの返信が来ないと、どのくらいの時間から不安になるかを尋ねたところ、中高学生の約 4 割が「気にしない」と回答したそうです。「すぐ」と答えた中高学生はなんと、わずか 5 パーセント。このように相手からの返信は即レスでなくても気にならないという人がほとんどです。自分が相手の都合を考えていることと同じことを、相手も思ってくれているということを少し考えておくと良いと思います。すると、ケータイとの付き合い方を変えられ、自分自身を縛ることのない付き合いが広がるのではないのでしょうか。

先生「ケータイやインターネットの中のコミュニケーションだけでなく、実際に話すというコミュニケーションの大切さを覚えてほしいんだ。特に君たちは、両親が勉強のことを言ってきてうっとおしいから話さないなんてことや、誰かに直接話しぶらい出来事とかもあるだろう？」

光一「まあ、ないこともないけど……」

先生「だから、その気持ちを SNS などに書き込んで満足したりすることもきっとあると思うんだ。けれど、友達に相談してみたり、両親ときちんと話すことのような実際の会話を忘れないようにしてほしいね」

剛「SNS での交流だけでなく、ちゃんと学校や家での会話も大切にすれば依存とかしなくてすむってことやねんな〜」

参考文献

尾木直樹『「ケータイ時代」を生きるきみへ』岩波書店、2009 年

ウィキペディア「秋葉原通り魔事件」

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A7%B%E8%91%89%E5%8E%9F%E9%80%9A%E3%82%8A%E9%AD%94%E4%BA%8B%E4%BB%B6>〉、2013 年 1 月 10 日

3時間目

女の子のコミュニケーション

浩介「あーもう、わっけわかんねえ！」

響「大声出して、どうしたの？」

浩介「なんか、中学の時の友達の千尋が相談に乗ってくれて言うから、昨日話を聞いたんだよ。なんか友達関係のことで悩んでるみたいだったから、もっとこうすればいいのに、とか親身になってアドバイスしてやったのに、逆ギレされてさー」

響「浩介、いつもみたいに『お前はここが悪いんだー』とか言いたいこと言ってたんでしょ」

浩介「だって本当のことだし……」

響「それは、女の子相手には適切ではないわね」

浩介「どういうことだよ」

響「まあちょっと見てみなさいよ」

◆女の子の相談は、相談ではない！？

女の子って、おしゃべりするのが大好きですよ。女子高生が放課後教室で日が暮れるまで話し込むところも、休日マックで話し続けるのも容易に想像できる光景ですし、大人になったってママ友の集まりなんてのもあり、井戸端会議という言葉は井戸のない現代でも存在します。そんななかで、「ねえ、こんなことがあったんだけどどう思う？」「〇〇にこんなこと言われたんだけど……」など、相談のような話は頻繁に登場します。しかし、その話の中には必ず、話し手がそれをポジティブにとらえているかネガティブにとらえているか、といういわゆる『正解』が隠れています。

女の子は、男の子とは違い基本的に“共感してほしいだけ”であることが多いです。なので、ここで具体的な解決案や正論を提示してほしいとは考えていないのです。それゆえに、それが正しいから、そう思ったから、という理由で否定から入ってしまうと、機嫌が悪くなってしまったりその人との今後の人間関係がぎくしゃくしてしまったりするのです。男の子のほうが、女の子よりもこういったことは少なく、正しいことは正しいと理解しやすいのですが、女の子は理論よりも感情が先行してしまいがちなため、意地になってしまうのです。女の子らしい女

の子はそんなものなのだ、と割り切って、相手がポジティブに話し始めたらまずは「うんうん」とにこやかに肯定し、ネガティブに話したなら「そうなんだ、大変だね」と共感を示してみましよう。

そして女の子の思いのたけを存分に聞いた後、和やかに別の考え方を示してあげましょう。相手が自分の味方だと思うだけで、そのあとのアドバイスも受け入れやすくなるものです。この性質を理解するだけで、かなり良い印象になるのではないのでしょうか。

浩介「なるほどなー……俺が間違ってるわけじゃなくても、それをあいつがすぐに認められな
いってことか」

響「まあそうかもね。内容によるけど」

浩介「響もこう対応してほしいと思ってんの？」

響「私はこんなに感情的ではないわ。皆がみんなこんな風でもないのよね、当然だけど」

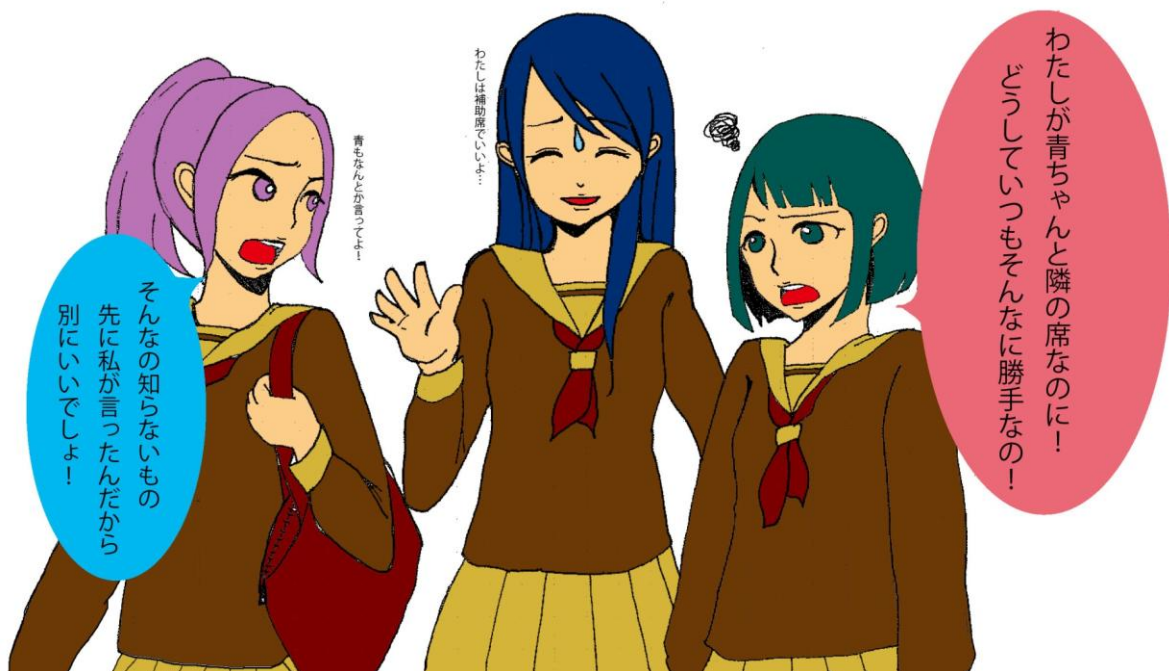
浩介「めんどくせー」

響「あら、男の子にだって、こんな子はいるでしょう」

浩介「あー……確かにそうかもな」

響「あくまでも一般的に、ってだけで、人それぞれよ。女の子に多いのは事実だけれど」

浩介「めんどくさいよなー。この間も、女同士のバトルがあったぜ？」



浩介「バスの席ぐらいで陰悪でさ。せっかくの旅行なのに」

響「まあ、女の子の間にはありがちな話よね」

浩介「こんなの、日常茶飯事なら女じゃなくてよかったと心底思うよ……」

響「たぶん女の子って、男の子よりも『仲間意識』が強いだよ」

◆女の子は『一緒』が好き

さきほどのイラストでもありましたが、(とくに中高生の)女の子は、単独行動というのがもっぱら苦手です。すぐ近くのトイレくらい一人で行けばいいのに、急いでいるなら一人で先に帰ればいいのに、そんな風に思ってしまう人も多いのではないのでしょうか。

もちろん男の子だってクラスで独りぼっちだとか、友達のいない場所というのは好まない場合が多いですが、女の子は輪をかけてそういった状況を嫌います。そのため、「どこに行くにも何をするにも一緒にないと気が済まない」という子が多いのです。「ひとりになっちゃったらどうしよう」「話についていけなくなったらどうしよう」そんな気持ちから不安になって、お互いがお互いを監視しあってるように見えてしまう、なんて状態になってしまったりするのです。

お互いがこの関係をよしとしているならば話は別ですが、片方が煩わしく思ってしまうことがある場合にはとても辛い関係になってしまう時があるでしょう。苦痛になる人間関係は、メリットよりもその辛さが勝ってしまうことになります。もちろん、一人にならない安心感も楽しさもあるでしょうし、そんな面倒な関係切ってしまえ！なんて言えませんが、なんとかその苦痛を和らげる対処をしましょう。

まずお勧めするのは、“二人組にならないこと”です。三人以上のグループに属すると、一人がその瞬間その場になくても、残りが一人になることはありません。よって、必ずしも共に行動しなければいけない、という空気から逃れやすくなると言えます。

そしてもう一点、可能な限り自分は自由奔放な人間だというアピールをしてみましょう。これは場合によっては反感を買うおそれがあるので、成功するかは時と場合、限度に気をつけなければなりませんが、最初から自由奔放な人だと知ってもらえれば、相手は無理に行動を共にさせる気もおこりにくいでしょう。

その場を楽しく、気分よく過ごせる関係をつくれるかどうかは、今の生活の充実度に関わりますし、なるべく無理のない居場所がほしいですね。ちょっとした工夫をすれば、面倒な事態に巻き込まれずに済むかもしれません。

そして最後に、頭の片隅に置いてほしいのですが、その一瞬の友情がうまくいかなかったからといって、あなたの高校生活が、人生が無駄になるわけではありません。もし、ちょっと失敗したかな、なんて思ったら、関係を増やせばいいのです。クラスには他の誰かがいるでしょう、クラス替えをしてしまえば違った知り合いも増えるでしょう。いまその瞬間の友人関係の外にあるたくさんの存在を知っておいてください。

浩介「うーん……そんな気をつかわなきゃいけないなんて、大変だな」

響「もちろんなにも考えずにうまくいく人だっているわよ。でもそうじゃない場合も多いから」

浩介「でもさ、友情に必勝法とかはねーよ」

響「その通りね。でも、ここに書いてあることがすべてじゃないわ。確かに女の子は面倒なことも多いけど、その分楽しいことだっていっぱいあるもの」

浩介「男だって楽しいさ」

響「まあ、それぞれにいいところがあるってこと。それに、面倒だなんて思う女の子にだって、絶対いいところはあるの。わかっててよね」

浩介「それが女の子のかわいいところでもあるからな」

響「よくわかってるじゃない。男の子ってほんとそういうのが好きよねー」

浩介「うるせーよ」

響「女の子についてはこれくらいにしておきましょうか」

浩介「おう、千尋にはちょっとフォローいれとくよ。ありがとな」

響「いいえ、皆さんにも聞いてもらえてよかったわ」

4時間目

目的をもって挑戦しよう

先生「授業も終わったし、職員室に帰りますか」

迷太「先生、聞きたいことがあって……」

先生「うん？ 話してみろ」

迷太「俺、大学の推薦で有利になるように、ボランティアか留学をしようと思ってるんです。

部活動も生徒会もやってないし。何かしないと不安で……」

先生「お前の気持ちも分からないこともないが、それは間違っていると思うぞ」

迷太「え……。推薦で有利にならないんですか？」

先生「そうじゃなくて。そんな動機でやるんじゃ意味が無い。 挑戦することは賛成だが、しっかりした目的を持ってやらないと」

迷太「確かに無計画かもしれません。実をいうと、ボランティアも留学もあまり知らなくて」

先生「それはいけない。ひとつずつ理解していけば、目的も定まってくる。 まずは、ボランティアをやる目的を探してみようか」

◆ボランティアがもつ意味

- ・ 自発性…最も大切なのは、どんな仕事でも積極的に参加する姿勢です。実際には、機会に恵まれずに参加できなかった人もたくさんいます。

その中で、きっかけを掴めたなら、何事にも全力で取り組むべきです。

ただ一つ、注意点があります。 それは、ボランティアした経験を道具として使うことです。利益を求めるのは間違っています。

- ・ 無償性…ボランティアと労働との大きな違いは、報酬の有無です。

ボランティアはお金をもらうことはできません。しかし、最近ではこの二つが曖昧になっています。 しっかり見極める必要があります。

- ・ 社会性…まず、ボランティアの現場を知って個人が考えること。次に周りの人たちと意見交換を繰り返して、かかわりを持つことです。

- ・ 継続性…ボランティアに参加した人の中には、一度参加しただけで満足してしまう人がいま

す。そうではなく、次の機会を探して参加して欲しいです。

もし無理だとしても、数年後にまた参加するという方法もあります。無理せずにかかわることが大切です。

- ・創造性…これは社会性の延長線上にあります。ボランティアを通して、個人が考えた答えを社会に提案するのです。その答えが間違っても良いのです。

若者がどんどん提案することで、社会にも変化が生まれるでしょう。

先生「これが、ボランティアの意味だ。イメージができたかな？」

迷太「はい。ありがとうございます」

先生「そうか。じゃ、次に何をすべきだと思う？」

迷太「うーん。自分にとってのメリットを探すとか……」

先生「正解だ。メリットは重要なモチベーションになる。ボランティアにはこんなメリットがある」

◆ボランティア活動で得られるもの

私達はボランティアをすることで、人として大きく成長できます。

例えば、災害ボランティアに参加します。他のボランティアと比べて、非日常な出来事の連続ばかりです。

しかし、それを乗り越えることで、日常では手に入ることのない考えが身に付きます。実際に、被災者と会話をする時は黙ったままではいけません。受け身になって、話を聴くこともあります。会話を楽しむ力が必要です。

その時に、コミュニケーションの大切さを思い知るはずです。そして、四苦八苦しながら会話しようと努力をします。すると、日常に帰ってくる頃には、以前より成長しているのではないのでしょうか。

今のは一例に過ぎませんが、どんなボランティアでもコミュニケーション力が向上される機会があります。ボランティアの現場にいる人達と世間話をするだけでも十分です。近所を掃除しているだけでも、何か出会いがあるかもしれません。



ボランティアを繰り返すことで、主体性が身に付きます。何事にも自分から積極的に取り組めるようになります。それは、ボランティアの基本でもあります。

迷太「うーん。とりあえず、身近なことからやってみようかな」

先生「その通りだ。自分のできることからやればいいんだよ」

迷太「分かりました。先生、留学のことも教えてください」

先生「いいぞ、留学にはこんなメリットがある」

◆高校生で留学するメリット～高校生と大学生の比較～

- ・語学習得が早い

高校生と大学生、英語をしっかりと勉強しているのは高校生です。大学生になると、英語に触れる機会自体が減ってきます。

だから、高校時代に留学することが一番良い時期なので、挑戦しましょう。

- ・先入観がないので、素直に物事を受け入れる

大人になるにつれて、一つの価値観に縛られがちになります。高校生は、純粋に物事へ向きあえる貴重な時期です。

- ・新たな人間関係を築きやすい

大学留学生になると、プライベートを重視してしまう傾向があるので、高校生に比べてより濃密な関係を築きにくいです。

迷太「なんだか楽しそうですね。留学したくなりました」

先生「それは良かったな。どうだ、目的はできそうか？」

迷太「はい。こんなのどうですか？」

◆留学をする目的 ～語学力を向上させるため（迷太の場合）～

私たちは、幼い頃から義務教育によって、英語に触れてきました。高校でも、授業の一環として取り入れられています。

留学は、これからも必要となる英語力を得意・不得意にかかわらず、短期間で伸ばすことができる手段のひとつだと思います。どんな人にでも言えますが、環境の変化は人に良くも悪くも急激な変化を与えます。

例えば日本にいたとすると、英語でしかコミュニケーションが取れないという状況は生まれにくいですが、もちろん、英会話レッスンに行けば、講師から生の英語を聴いて会話する。しかし、その場限りでは、なかなか向上しないのが現実です。

一方で、留学することができれば、英語しか伝わらないという状況下に置かれます。最初は不安ばかりだと思いますが、英語力の向上には最適な環境です。

先生「なるほど。英語力を伸ばしたいのか。いいじゃないか」

迷太「ありがとうございます。ただ闇雲に挑戦するだけじゃなくて、まずは目的を持つことが大事ですね。留学ですが、もう少ししっかり考えてから行動しようと思います」

先生「うん。それが分かっただけでも成長した証拠だ。何か聞きたいことがあったらまた言いなさい」

迷太「分かりました。色々とありがとうございました。また授業で」

◆その他にも、留学にはこんな目的があります

- ・自分の視野を広げて、将来の選択肢を増やすため

私たちは、人と出会うことで様々なことを学びます。それは、日常生活の中でもたくさん機会があります。

しかし、今まで持っていた考え方が 180 度ひっくり返るような体験はそうできるものではありません。個人差があったとしても、日本という同じ環境で育っていたら、自然と似たような視野になります。それは仕方が無いことです。そこから学べることも多くありますが、より視野を広げたいと考えているのなら、海外の人と交流すべきです。

なぜなら、彼らは、日本人と全く違うライフスタイルや考え方を持っているからです。物事一つ取っても、環境の違いで捉え方が異なってくるので、思わぬ発見の連続だと思います。



その体験が視野を広げる機会となります。素直に物事をとらえる時期に体験しないと駄目なのです。

そして、将来と向き合うときに、より多くの選択肢が生まれるでしょう。

参考文献 諏訪清二『高校生、災害と向き合う』岩波ジュニア新書 2011 年
津田倫男『十代の留学が子どもの未来をひらく』文藝春秋 2007 年

昼休み

コラム“コミュしょう”ってなに？

紫「ようこそコミュ障人間の皆様。そうでないと思っている方もどうぞお手柔らかに」
緑「早速ですが、コミュ障診断してみましょうか」



○会話編

- ・論理的に話すことが全くできない
- ・自分の声や滑舌に強い劣等感を持っていて、言葉を発する度に嫌な気持ちになる。
- ・話していても余計なことを言ってしまうか常に不安であり、自分の意見を言えない事がほとんどである
- ・相手にどう思われるか常に気にしながら会話していて、内容に集中できない事がほとんどである

○社会編

- ・外出しても人と目が会うのが怖く、ほぼうつむき加減で歩く
- ・店員に対して気を使いすぎてしまう
(ズボンの裾直しをお願いできない、おかわり無料なのに頼めない、等)
- ・突然の訪問に居留守を使ってしまうことがほとんどである
- ・10人程度の会合や飲み会で孤立することがほとんどである
- ・地域や会社、学校のイベントなどには絶対に参加したくない

1つでもあてはまるなら、コミュ障の可能性が高いです。

5つ以上あてはまるなら、重度のコミュ障である可能性が高いです。

コミュ障診断チェックシート

(<http://comyusyo.nerim.info/check.html>)

ネットに上がっている診断の中でも、比較的短いものを選んでみました。これに当て嵌まる方は「コミュ障人間」ということになるようです。

◆コミュニケーション障害≠コミュ障

【そもそも「コミュ障」とは何なのでしょう？】

「コミュ障」は、ネットスラング（ネット上で使われる・生まれた言葉）です。

語源は「コミュニケーション障害」。主に幼児～青年期に発病する心の障害のことで、失語症やどもり症などにかかります。その単なる略称として使われることもありますが、ネットスラングの「コミュ障」の場合は、微妙に意味合いが違っているんです。そのニュアンスは感覚的なものなので説明しにくいのですが、「コミュニケーションが下手・苦手・怖い人」といった意味です。

ネットスラング的意味での「コミュ障診断」をしてみると、項目の内容に全く心当たりのない人の方が少ないかもしれません。皆が思い浮かべている「コミュ障モデル」に沿った項目が並べられているだけだからです。

◆ネット上での“コミュ障”の使われ方

【どこで、どのように使われているのでしょうか？】

「コミュ障」という言葉は、コミュ障的人物である自分が自分を貶めるために使う場合が少なくありません。いわゆる自虐ネタというやつです。他人がコミュ障的人物であることを侮蔑するために使うような人はここでは触れません。

ネット上では主にこういった場で見かけます。

- ・「コミュ障診断」
- ・2chの「コミュ障スレ」「コミュ障克服法」
- ・SNS上の呟きなど

先述したように、コミュ障診断に書かれた「コミュ障モデル」に当てはまれば、自分は「コミュ障」であると思う。そして現実世界においてコミュ障的経験をすると、それをスレに書き込みます。

(2ch スレ例)

「会話を途中であきらめる」

「話しかけられて上手く返事できなかった時、頭の中で意味のない反省会やってる」

「言いたいことを頭で整理してたのに言えなくて、あ…えっと…ってなる」

さらにコミュ障を克服したい人のためのスレに飛んでいくこともあります。参考にして頑張ってみたり、あれは駄目これも駄目と首を振ったり。結局またコミュ障という穴蔵に頭を突っ込んで、「僕はコミュ障だやっぱり駄目だクズなんだ」と自虐してしまったり。

ネットスラング“コミュ障”は、彼らに悪影響を与える恐ろしい面を持っています。知ってしまったら自分がコミュ障になる可能性が生まれてしまう。そしてコミュ障だと認識すれば、その言葉を言い訳に使い続けてしまう。言葉ならではの力ですね。

◆コミュニケーションを気にするのは誰に対して？

【自称コミュ障のくせに、ネット上では自分のことを書きまくれるのは何故でしょう？】

それは「コミュ障」という言葉を知って始めて自分が「コミュ障」になるのと同じように、「コミュニケーションそのものを気にしなければ、コミュ障ではない」という解決法があるからです。

コミュ障が不安を感じるのは、コミュニケーションをする相手によります。

気兼ねしない人と一緒にいるときは、自称コミュ障もコミュ障ではありません。例えば、友達や上司と一緒にいると何か話さなければならない。でもペットとは無言でいても大丈夫。先ほどのコミュ障スレは、単なる独り言の公表です。Twitter やニコニコ動画のコメントもそういう面がありますね。(もちろんマナーは守りましょう)

自身が発言するときに「何を、どう言えばいいか」等と悩みさえしなければ、話すこと、他人と関わることに抵抗しなくなるはずです。

しかし、それって至極当然のことではありませんか。

上司と関わるのに何も気兼ねしなくて良いわけがありませんし、友達との前でも好き勝手に喋

ればいいなんて開き直れば、それこそクズ街道まっしぐら。ネットでも散々叩かれて荒らされるのがオチです。自称コミュ障が自分に甘いのは事実ですが、他人を気にすることが出来る分、まだマシかもしれません。

◆「“コミュしょう” ってなあに？」

「コミュ障」は知ってしまうと使いたくなりますが、本当はあってもなくてもいい程度の効果しか無い。その意味だって形が決まっているようでいて、至極曖昧なものです。だから具体的にその正体を言い表すことはできません。

言葉ですから、人によってどういう意味として捉えているかも違います。軽い気持ちで「俺まじコミュ障!」と言って気にしていない人もいるし、深刻にその言葉に思い悩んでいる人だっているはずです。医学的用語でも日常会話の言葉でもネットスラングでも、鵜呑みにしたりむやみに使ったりしないように心掛けておきましょう。

紫「ふうん、何だか憑き物みたい。気に病んだら疲れてしまう」

緑「そうですね。——皆様、使役するつもりが「言葉」そのものに囚われてしまわないよう、お気をつけ下さい」

5 時間目

気配りと会話のコツ

夏子「最近『コミュカが大事』ってよく聞くけど、具体的には何をすればいいんだろ。うーん、分からないよ」

秋治「大丈夫だって。そんなに心配するようなことじゃないよ」

夏子「だってさ、私にコミュカなんてないんだもん。リーダーシップなんかないし、面白いことも言えないよ」

秋治「まあ、確かにコミュカという言葉はよく聞くけど、何も特別な才能が必要ってわけじゃない。ほんのちょっとしたコツを知れば、友達とも上手くやっていけるよ」

夏子「マジで？ 教えて教えて」

秋治「そうだな、まずは……」

他人と話すときは、言葉の暴力を使わないように気をつけましょう。当たり前のことですが、「死ね」とか「殺す」といった言葉は冗談であっても使うべきではありません。もちろん、暴力を振るうことも許されません。自分は面白半分にしたとしても、その発言のせいで相手が深く傷つく可能性があるのです。

それに、誰かに頼みごとをする時の言葉づかいも大切です。たとえ、同じニュアンスの発言でも「おい、そこ片付けとけ」と「〇〇さん、片付けをお願いしたいんだけど、いいかな」ではまったく印象が違うということです。当然ですが、「ありがとう」といった相手に対する感謝の言葉も忘れてはいけません。

秋治「とはいっても、上で挙げたことがいつも正しいとは限らないけど。時と場合によっては厳しく接する必要もあるし、その逆だって有り得る。教科書通りに動くことなんて、まず少ないだろうし」

夏子「臨機応変に動くのが大事ってことね。そこは自分の頭でよく考えなきゃ」

秋治「そういうこと。次は、コミュニケーションの心構えの説明だな」

これから先、私たちは学校や職場で多くの人間と出会います。その中には、どうしても仲良く出来ないという人もいるかもしれません。ですが、『みんなと仲良くしなきゃいけない』と考える必要はありません。友達としての付き合いと、クラス・会社の仲間としての付き合いは別物です。友達として上手く付き合えない人でも、学校行事の仕事などでチームの一員として信頼出来たらそれでいいのです（あくまでもチームの一員というのが重要です）。

だから、たとえ少数でも心から分かりあえる友達を作るのが大事だといえます。

秋治「ほら、アレだよ。量より質ってやつ」

夏子「なるほど、友達作りは人それぞれだもんね。そうそう、学校の中でよく喋るのは、同じクラスの子だよな。秋治のアドバイス、早速生かしてみよう」

秋治「確かに、学校生活で一番関わりが多いのは同じクラスの人間だよな。今説明したコミュニケーションのコツは、しっかり実践すべきだと思う」

夏子「うん。緊張するかもしれないけど、クラスのみんなと打ち解けたいな。ありがとうもちゃんと言うし、自分の発言にも気をつけるよ」

秋治「それはなにより。さっき言ったコツに加えて、あといくつか説明しようか」

夏子「もっとあるの？　じゃあお願い」



基本的なことです、人と話すときにはちゃんと相手の顔を見るようにしましょう。携帯電話をいじっていたり耳にイヤホンをつけた状態だと、相手は自分の話を聞く気が無いように感じます。相手の顔を見て、しっかりとあいづちを打つと好印象になるでしょう。また、体育祭や学園祭といった学校行事の際には積極的に手伝いをするべきです。運動が下手でも不器用でも、まず自分から動くことが大事だということを忘れてはいけません。

コミュニケーションという言葉が溢れるこのご時世ですが、みんなとは違うすごいことをしなければいけないというわけではありません。面倒くさがらずに、人と向き合うことが大事な

のです。これは、コミュニケーションの基本でもあります。

秋治「さっきも言ったように、特別な才能が必要ってわけじゃない。自分を追い詰めなくても、
上に挙げたことを地道にこなせば大丈夫ってこと」

夏子「やっぱり、初心は大事だもんね。気を付けようっと」

秋治「うん。せつかくの学生生活なんだから、楽しまないと」

夏子「そうよね、今しか出来ないことをたくさんやりたいな」

秋治「俺も。ネガティブになるのは良くないしな」

夏子「よかったー。でもさ、ちょっと気になることがあるんだよね」

秋治「ん？ どうした？」

夏子「私たちって、今は学生じゃん？ 大人になって社会に出ても、今までどおりのコミュニケーションでやっていけるのかなって」

秋治「社会人のコミュニケーションは、学生とは一味違う。仕事絡んでくるし、今みたいにお気楽な雰囲気ではないだろうね」

夏子「例えば、どんな？」

社会人には正しい身なりや挨拶の他に、マナーも求められます。そして、仕事の種類によっては客の立場となる人々とも関わりを持つことになります。その中では、第一印象が大切だといえます。自分の身なりを、今以上に注意して整えなければいけません。『人を見かけで判断してはいけない』という言葉がありますが、だらしない格好をしている人よりも正しい着こなしをしている人の方が話しやすいのです。人と話す前に、まず自分の身体をよく見る必要があります。

そして、正しい言葉づかいも社会人には必須です。尊敬語や謙譲語の使い方は少し難しいですが、いずれ覚えなくてはなりません。

夏子「……よく考えたらさ、挨拶や身なりは学生の時に気をつけてたらそんなに苦労しなさそうじゃない？」

秋治「そう。学生の頃に注意すべきことの延長戦だという見方もできる。挨拶や正しい身なり

は、社会人になると人となりを判断する材料になる。だからこれも、立派なコミュニケーションの一部ってわけ」

夏子「見た目も中身も大事ってことね。そう考えると、ちょっと簡単かも」

秋治「そうだな。油断は禁物だけど、気負いすぎるのも駄目。コミュニケーションがどうとか考える前に、まず人との会話を楽しまなきゃな。そうしないと、日常生活そのものがつまらなくなってしまう」

夏子「うん！ 私、頑張る！」

??<たのもう（ゴンゴン）>

??<ごめん、ドア開けてくれるー？>

夏子「秋治見て、ドアの外で霊長類が暴れてる」

秋治「いやこの声、春真と夏子だろ」

夏子「このまま無視し続けたらどうなるかな」

秋治「可哀想だから開けてやれよ」

夏子「春真の『たのもう』がイラッときたからヤダ」

??<開けてくれって！ いま手塞がってるんだよ（ゴンゴン）>

夏子「あーハイハイ。も一うるさいな、自分で開ければいいのに（がらがら）」

春真「こんだけノート抱えた手で開けれれると思うか？」

夏子「冬実が持ってる大きいのは何ー？」

冬実「世界地図だよ。次の授業で使うから教室まで運んどいてって先生に頼まれたの。私と春真、日直だから」

春真「おい無視かよ！」

冬実「ごめんね、会話中断させちゃって」

夏子「……秋治、冬実は気遣いの出来る良い子だと思う」

冬実「え？」

秋治「いや、いま学生でも社会人でも挨拶とか気遣いっていう基礎は大事だよなあって話してたところでさ」

夏子「そうそう、冬実は春真と違って『ごめんね』が言える良い子ねって話」

春真「じゃあ夏子はまず俺に対する態度の悪さを謝るべきだろ」

冬実「んー、確かにゴメンとかアリガトウって一言があるか無いかで印象が変わる事ってあるよね」

夏子「そう、例えばこの前友達と買い物に行ったんだけど、その子いつも待ち合わせに遅れてくるのね」

秋治「あー、いるいるそういう奴」

春真「何で俺の方見るわけ？」

冬実「それで？」

夏子「遅れてくるのはいつものことだし、私だって遅刻しちゃう事もあるからそれはいいの。ただけどその日は買い物の前に映画観る予定で、チケットも事前買ってあったの。映画はさ、上映時間も決まってるから絶対遅れたくないでしょ？」

秋治「最初見逃すとキャラの人間関係もわけ分かんなくなるしな」

春真「どうせその子また遅れてきたんだろ？ 最初からそんな奴と遊びに行かなきゃいいのに」

冬実「も〜春真！ 話の腰を折らないで！ 夏子、続き話して？」

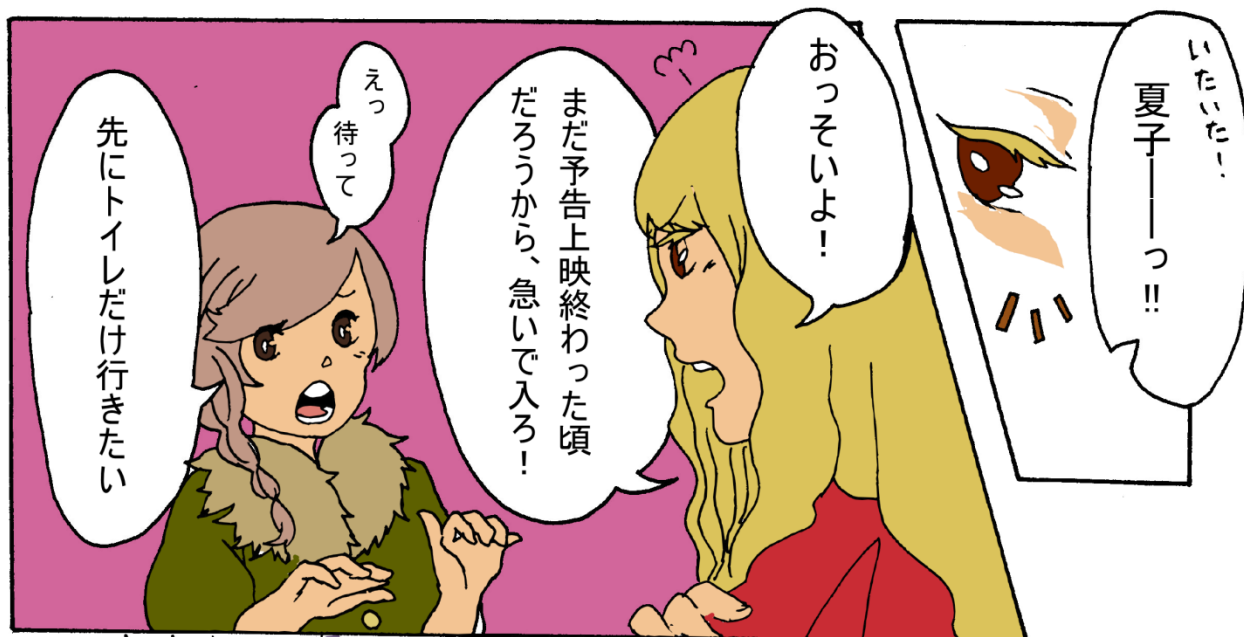
夏子「まあ、春真の言うとおりに、やっぱり遅刻してきたのよ。上映開始時間を数分過ぎた頃に受付ロビーにきたその子は『あ、いたー！』って言いながら駆け寄って来たの。急いで来たんだなっていうのは分かったし、『ごめんね』って言われたらいつもみたいに『いいよ、いいよ』って受け流すつもりだったの。流すつもりだったのよ！？」

冬実「流せなかったのね」

秋治「流せない何かがあったんだな」







夏子「信じられる！？ ごめんねの一言も無しで、おまけに『時間ずらして観ればいいじゃん』
だよ！？ いやまずは謝れよ！！」

秋治「夏子さま抑えて抑えて」

冬実「夏子さま怖い」

たった一言のお礼や謝罪を言われるだけで嬉しくなる事があります。その逆に、たった一言に傷つけられてしまうことだってあるのです。今回の例のように、いくら合理的な行動案を出そうとも、「ごめん」の一言が言えないようでは賢いとは言えません。待たされている時間は長く感じるだろうとか、その間立ちっぱなしだったから足も疲れてるだろうとか、相手の気持ちになって考えてみる事って大事じゃないでしょうか？ それを声に出して伝えることで、同じ遅刻でも印象はずいぶん変わります。

また、謝るにしても、毎度「ごめん、ごめん」で押し通す人って、とりあえず謝っておけばいいと思ってる印象になりませんか？ 「遅れてごめん」を告げれば相手はもう許してくれていいると思いがちですが、待たされた方には釈然としない何かかもやっに残るものです。謝罪が無いのは論外として、「遅れてごめん」と言うのは大切、そこに加えて「ヒールなのに長い時間立たせちゃってごめんね」の一言が加われば印象ってずいぶん違うと思いませんか？ 大切なのはやっぱり相手を見て、相手の事を考えて話すという事です。

春真「でもお前、それくらいの事でちょっと怒りすぎじゃない？」

夏子「それくらい！？ それくらいって言った！？」

秋治「春真謝れ」

夏子「春真帰れ」

春真「俺に対してだけつらく当たるの流行ってんの？ ひどくない？ いや、だからさあ、その子が毎回遅刻するって分かってるんだったら遊ぶ約束しなけりゃいいじゃん」

夏子「でも、ちょっと変わってるけど悪い子じゃないし、イラッとくる事もあるけど遊んでて面白い子ではあるんだよ？ 漫画とか映画の趣味も物凄く合うし、時間にルーズな所さえなければ……」

春真「じゃあアレだ、遊ぶときは夏子が毎回電話入れて起こせば？ もしくは家まで迎えにいくとか」

夏子「そんなの毎回面倒見てらんないよ～。私だって自分が遅れる事もあるわけだし、あんまり向こうの遅刻ばかり指摘するのもさあ」

春真「じゃあ待ち合わせの2～3時間前に『今日って〇時待ち合わせだよ？』とかメール入れば？」

夏子「急かすみたいでやらしいじゃん。それにメールしたところで、ああいう子は『あと3時間もあるから大丈夫～』とか思ってる間に時間が迫ってきて『間に合わない！』ってなるんだよ」

春真「あーもう！ 結局どうしたいんだよお前は！ もう遊ぶな！ じゃなかったら文句言うな！」

冬実「春真は短気すぎるよ……」

春真「こっちが解決策提案しても全部『だって～』『でも～』ばかりだからだろー！」

秋治「女の子がぐちぐち話すときは、解決策が欲しいんじゃなくて話聞いて欲しいだけって3時間目に聞いたぞ。こういう時に正論ぶつけると逆切れされるんだって。俺も姉ちゃんにキレられたことあるからわかる」

このお話を聞いたとき春真と同じように「そんな事くらい受け流さなくちゃ」と思った人もいるのではないのでしょうか？ もしかして「そんな事くらい」と声に出していつってしまった経験のある人もいるかもしれませんね。忘れちゃいけないのは自分にとっては「そんな事」でも、話した本人にとっては「そんな事」で片づけられないから話しているという事です。

コミュニケーション上手とは、何も口数多くその場が盛り上げることを指すものではありません。話が面白い人は一緒にいて楽しいです。しかし人の悩みを「そんな事」と片付けてしまう人に、なにか相談したいなどとは思わないですよ？ 盛り上げ上手でいつも話題の中心、そんな人が、親しいと思っていた友人の悩みを本人からではなく他の人から聞く事になったりする事ありません？ それってその場で一緒にいる分には楽しいけど、悩み相談をする相手には選ばれなかったって事ですよ？ いくら話が面白くたって、話し上手の聞き下手では、本当に深く付き合える友人というのはなかなか出来ないと思いませんか？

初対面の人と接するときは、盛り上げ上手の人の方が何かと有利でしょう。だけど人付き合いというのは初対面では終わりません。付き合い続けていく中で大切になってくるのは、相手の気持ちを考える気遣いじゃないのでしょうか。

参考文献

- ・香山リカ『職場で他人を傷つける人たち』ベスト新書、２０１２年
- ・牛場靖彦『モンダイは君のその喋り方と態度だ!相手を思いやるコミュニケーションのコツ』
日本実業出版社、２００２年

終わりの会

自分に合ったコミュニケーションを探そう



(ザワザワ、ザワザワ)

教頭「はい、みなさん静かに！ ……では校長先生のお話です。校長、よろしくおねがいします」

校長「教頭先生、ありがとう。いやあ、僕のはなしはいつも長いですからね～。しかもつまらない！ みなさんが騒ぎたくなる気持ちもわかります。ええ、ええ。そこで今日はね、ひとつみなさんの役に立つお話をしようと思ひまして。毎回こうして集会開くたびに僕の無駄話に付き合ってもらっているからね～。ははは。ん？ 無駄話のために集会開くなんて？ いいじゃない、僕だってみんなとコミュニケーションとりたいんだもん。最近教頭もかまってくれないし……。 (チラッ)」

教頭「……コホン。校長、そろそろ話の方を」

校長「ああ、そうでしたね。ええ、僕が今日話すのはズバリ、コミュニケーションについてです。先ほども少し触れましたが、僕がいまここで、みなさんに話しているのもコミュニケーションの一環ですし、そこでひそひそ喋っているのも、コミュニケーションと言えますよね」

教頭「そこ、静かに！」

校長「で、まあ、一口にコミュニケーションと言ってもその形は様々です。今日の社会では、コミュニケーション力、通称『コミュ力』とやらを重視することが増えているようですが、それに伴い企業もコミュ力が高い人材を求める傾向にあります。君たち学生諸君が思い描くコミュ力とは、友達との関係を円滑にするため、または社会へ出てからもうまく周りや協調していくため、といったものでしょうか。もちろんそれは正しいです。しかし僕が言いたいことは、コミュニケーションの役割はそれだけじゃないんですよ、ということです。

『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』などで有名なアニメ映画監督の押井守さんは自身の著書『コミュニケーションは要らない』のなかでコミュニケーションを大きくふたつに分けて考えました。

- ① 現状を維持するためのコミュニケーション
- ② 異質なものと付き合うためのコミュニケーション

ええ、ではこのふたつについて簡単に説明しましょうね。まず①はご近所付き合いや会社付き合い、先輩との付き合いや友達との付き合い、さらには夫婦関係や家族関係、恋愛関係などを維持するための身内のコミュニケーションのことを指します。それに対して②は、会社や学校での会議、交渉、または恋愛において自分の意見を示すためのコミュニケーションのことを表しています。

さあ、相反する二つのコミュニケーションを紹介しましたが、みなさんが身につけようとしている『コミュ力』とは①を意識したものが多いと思いませんか？ それはなぜなのか。実はここに『空気』といった問題がからんでいるからなのですね。

さて、空気というものは日本独自のものです。『KY（空気が読めない）』といった言葉がでてきたのは最近のことですが、空気という文化それ自体は戦前から存在していたのです。山本七平『「空気」の研究』という日本人と空気の関係性を描いた本がありますが、こちらが発行されたのは1977年、今から40年近くも前のことなんですね。この中で山本さんは「もし将来日本を破壊するものがあるとしたら、それは、三十年前の破壊（戦争の敗北）同様におそらく空気なのであろう」と述べています。小さな世界では空気に従うことで成功に導かれることが多いですが、少し視野を広げてみるとそれは自ら失敗に向かっているようなものなのですね。日本の文化を表すことわざのひとつに『出る杭は打たれる』とありますが、まさにその通りで、それが正しかろうと場違いな意見を言うものならすぐさま冷たい視線を向けられる、なんてことは少なくないでしょう。みなさんもそんな経験ありませんか？」

迷太「(確かにテスト前に遊びに誘われたとき、本当は勉強したかったけどみんなの前じゃ断れなかったな……)」

純平「(そういや2ちゃんは何気なく反論意見言ったら住民全員に袋叩きにされたな……)」

教頭「(家族の前でなにか喋る度嫌な顔をされるが、これも日本の文化だったのか……)」

校長「このように現状維持にこだわる日本人ですが、一方アメリカ人は、自分の意見をはっきりと提示することは勇気ある行動とみなしています。こちらは②のコミュニケーションが頻繁にとられていることの表れですね。逆に彼らが日本に来た場合、空気を読むとい

う行為に慣れていないため「察してよ……」の合図が通じにくかったりしますね。これはどちらの国が優れているという話ではありません。つまりね、広い視野で見れば「空気が読めない」、「会話が続かない」からと言って『コミュ力』がないとは言い切れないということです。本当に何かを成したいという強い意志があるのであれば他人のコミュニケーションの方法論に惑わされることなく、自分なりのコミュニケーションのシステムを作ればよいのです。例えば手紙や、本または映画だって、コミュニケーションをとるための道具（ツール）となり得ます。自分の考えや気持ちを伝えるために必要なのは会話だけではないのですよ。

このなかには卒業後、進学して大学へ行く人もいれば、すぐに働きだすひともいるでしょう。どちらにしろ、これから社会に出るにあたって自分の意見を求められる機会は増えていきます。また会社で生き残るためにはうまく人と付き合っていくことも要求されるでしょう。『コミュ力』という言葉に惑わされず、その都度、自分にあったコミュニケーションを探してみてくださいね。だから教頭も、もっと僕と積極的にコミュニケーション……」

教頭「校長先生ありがとうございました」

参考文献

押井守『コミュニケーションは要らない』幻冬舎、2012年

山本七平『「空気」の研究』文藝春秋、1983年

放課後

編集後記

「ヤンコミュ！」は、近畿大学文芸学部文学科日本文学専攻創作・評論コース栞原ゼミの3回生が製作しました。創作・評論演習という授業の中で、まず「日本社会の特質」というものについて各自が考え、発表しました。そこから「コミュニケーションとは何か」というテーマを定め、読者対象である高校生みなさんに伝えたい内容を電子書籍のかたちで編集したものが本誌です。



親しみやすい話題についてふれるのはもちろん、それぞれの章にキャラクターの会話を盛り込んだり、イラストや漫画を取り入れたりすることで、高校生みなさんにも手に取ってもらいやすい一冊になるよう心がけました。コミュニケーションという形の見えないものについて、考えを深めるのに少しでも役立てば嬉しいです。

最後まで読んでくださって、本当にありがとうございました。

「ヤンコミュ！」

2013年 1月31日 発行

〈著者〉

朝の会	前書き・もくじ	北川友梨
1 時間目	「コミュ力」に騙されるな？ ～コミュニケーションとは何か～	筒井真哉・山本翔太
2 時間目	ネットとコミュニケーション	内池英陽・西島彩夏
3 時間目	女の子のコミュニケーション	北川友梨
4 時間目	目的をもって挑戦しよう	脇諒祐
昼休み	コラム “コミュしょう” ってなあに？	藤田夕紀子

5 時間目	気配りと会話のコツ	児玉彩・小山茜
終わりの会	自分に合ったコミュニケーションを探そう	北村有沙
放課後	編集後記	西島彩夏

イラスト担当	北川友梨・藤田夕紀子
レイアウト担当	北川友梨

発行 近畿大学 文芸学部 文学科 日本文学専攻 創作・評論コース 栗原ゼミ 3 回生